

# イギリスにおける博物館教育

—ロンドン帝国戦争博物館を事例として—

田尻 信壹

## An Investigation into the Museum Education in the United Kingdom

—A case of the Imperial War Museum London—

Shin-ichi TAJIRI

### 概要

本稿では、筆者が2008年9月に現地調査を行ったイギリスのロンドン帝国戦争博物館を事例として取り上げ、博物館の展示、収蔵品及び教育プログラムと同国のナショナル・カリキュラムの関係について検討する。ロンドン帝国戦争博物館の教育プログラムは、ナショナル・カリキュラムに対応した講座が準備されており、学校教育への積極的な取組みを見ることができる。日本では、新学習指導要領のもとで知識基盤社会の到来やグローバル化に対応した学習が志向され、生涯学習の奨励や思考力・判断力・表現力の育成が期待されている。新学習指導要領で示されている理念を実現するためにも、イギリスの博物館教育について検討し、その成果を取り入れることは重要なことであろう。

**キーワード**：イギリスの博物館教育，ロンドン帝国戦争博物館，ナショナル・カリキュラム，知識基盤社会

**Keywords**：the Museum Education in the United Kingdom, the Imperial War Museum London, the National Curriculum, the Knowledge-based Society

### はじめに

筆者は、2008年9月に、ロンドンの博物館を調査する機会を得た<sup>(1)</sup>。この小論では、筆者が調査したロンドンの博物館の中から、ロンドン帝国戦争博物館 (the Imperial War Museum London) を事例として取り上げ、同国のナショナル・カリキュラムとの関連を通して、同博物館の学校教育への支援活動の在り方について検討する。

21世紀の学校教育の使命は、知識基盤社会 (the knowledge-based Society) の到来やグローバル化の進展を直視し、それに対応できる人間を育成していくことであると言われる。学校と言う場で、地域の教育資源とネットワークを活用した教育を推進するためには、「総合的な学習の時間」のような横断的・総合的な学習や、社会科や地理歴史科 (以下、「地歴科」と略記する) での学習が効果的であると考え。実際、「総合的な学習の時間」の配慮事項として、現行学習指導要領のもとで「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること」(現行学習指導要領「総則」, 1999年告示, 2003年一部改正) が明記されており、学校による地域の社会教育施設や社会教育関係団体等との連携や活用が求められていることから裏付けられる。

しかし、今日の学校を取り巻く状況は厳しく、教師

たちは日常の教科指導や生活指導で手一杯であり、博物館等を活用した授業や活動が実施できていないのが実情である (国立教育政策研究所教育課程研究センター 2007: 199, 259, 319)。日本のこのような現状を考えた場合、イギリスで行われている博物館教育の取組みは参考になる。イギリスの博物館では、近年、アクセシブル (accessible) (近づきやすい、利用しやすい、社会に開かれている) と言うことが強調され、博物館から学校への積極的な働きかけが行なわれている (小島2000: 3-4)。そのため、イギリスの博物館による学校教育への支援状況について検討することは、学校による博物館等の活用を推進する上からも十分に意味があると考え。

### 1 イギリスの博物館教育と今後の日本の動向

2008年3月に小学校と中学校の、また2009年3月に高等学校と特別支援学校の学習指導要領 (以下、「新学習指導要領」と表記する) が告示された。2008年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」は、学習指導要領改訂の方向性や基本的考え方が示されており、新学習指導要領が示す理念を知る上で参考になる。そこでは、21世紀を新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、知識基盤社会の時代である

と位置付けている（中央教育審議会2008：8-10）。そのため、新学習指導要領では、知識基盤社会に対応した能力を身につけることが求められるようになった。

このような社会の到来に際して、今後、学校教育が果たすべき使命や役割を考える上で、イギリスにおける博物館教育の取組みは興味深い。ヴィクトリア&アルバート美術館（The Victoria and Albert Museum）教育部長のD.アンダーソン（Anderson, David）は、このような社会を「知の成長社会」ととらえ、博物館をそのような社会の牽引車として位置付け、博物館産業の成長に大きな期待を寄せている（塚原・アンダーソン1999：381-389）。そして、D.アンダーソンは、博物館のもつ教育的役割として「カルチャー・リテラシーを高めるミュージアム」、「地域社会のエネルギーを引き出すミュージアム」、「学習活動のデザイナーとしてのミュージアム」等の役割を提起している（塚原・アンダーソン1999：156-167）。このことは、イギリスの博物館の現地調査を行った栗原祐司の論考からも確認ができる（栗原2001）。栗原は、イギリスにおける博物館政策を現地調査し、同国では博物館、図書館、文書館を管理するための単一の委員会が組織され、そこで博物館等が所蔵する資料、文献、公文書、古文書などをまとめ、教育的資源として活用していこうとする試みが実行されていることを紹介している（栗原2001：24）。その結果、イギリスの博物館では、近年、「教育サービス」と言う考え方が強調され、収蔵品を研究の対象とするよりも教育的に活用することが重視されるようになってきたことを指摘している（栗原2001：25）。

イギリスの博物館教育の実態については、小島道裕の研究が詳しい（小島2000, 2001）。小島は、ヴィクトリア&アルバート美術館の取組みを中心にイギリスの博物館教育について、紹介している。ここでは、各種講座、展示解説、子供・家族向けの催し、ワークシートの作成、学校団体への対応など興味深い取組みが行われている（小島2000：12-35）。

学校教育との関連で、イギリスの博物館教育を展望した場合、ナショナル・カリキュラムのもつ意味が大きい。イギリスでは、1988年にナショナル・カリキュラムが学校教育に導入された。博物館等の学校教育への支援の方法として、博物館・美術館・史跡での展示がナショナル・カリキュラムのどの部分に対応し、どのような活動が可能かという説明が求められた。その結果、博物館等では、展示等を学校のカリキュラムに関連付ける取組みが行われることになった（栗原2001：24-25, 小島2001：174）。現在、多くの博物館では、展示や講座の内容が学校カリキュラムのどのキーステージ（Key Stage,

以下、「KS」と略記する）<sup>(2)</sup>に該当するかが明示されており、博物館のホームページ上に博物館の展示や講座の内容とナショナル・カリキュラムの関係を示す文書や表が公開されている。ロンドン帝国戦争博物館の場合

も、館内の展示、収蔵品や開設講座とナショナル・カリキュラムとの対照表が同博物館のホームページ上に掲載されている<sup>(3)</sup>。同博物館の展示、収蔵品、開設講座とナショナル・カリキュラムとの関係については、本稿の「3-（1）ナショナル・カリキュラムとの関係」の項で扱うことにする。イギリスでは、博物館が生涯教育の場としてだけでなく、第二の教室として、学校教育の場でも活用されている点は注目される。

日本でも、冒頭（「はじめに」）で触れたように、学校教育での博物館等の活用については現行学習指導要領の総則で取り上げられており、また新学習指導要領でも小・中学校社会科及び高校地歴科で博物館の積極的な活用が示されている。新学習指導要領及び新学習指導要領解説の小・中学校社会科、高校地歴科における博物館等の活用に関する記述を整理すると、以下のようになる（「資料1 小・中学校の新学習指導要領社会編及び高校の新学習指導要領地理歴史編における博物館等の記述」を参照）。

#### 資料1 小・中学校の新学習指導要領社会編及び高校の新学習指導要領地理歴史編における博物館等の記述

##### ○小学校学習指導要領第2章第2節 社会

###### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。  
(2)博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること。（文部科学省 2008a：41）

##### ○中学校学習指導要領第2章第2節 社会

###### 歴史的分野 3 内容の取扱い

- (1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。  
カ 日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなどして具体的に学ぶことができるようにすること。

（文部科学省 2008 b：38）

##### ○高等学校学習指導要領第2章第2節 地理歴史

###### 第1 世界史A

###### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。  
イ 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。

**第2 世界史B**

3 内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。

イ 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。

**第3 日本史A**

3 内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。

ウ 年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。

**第4 日本史B**

3 内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。

ウ 年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。

(文部科学省 2009 : 34, 37, 39, 41-42)

\*新学習指導要領の文章に付された下線は筆者による。

また、小・中学校の学習指導要領解説社会編<sup>(4)</sup>では、学校による博物館等の施設活用の意義や方法として、以下のことをあげている(「資料2 小・中学校の新学習指導要領解説社会編における博物館等の記述」を参照)。

**資料2 小・中学校の新学習指導要領解説社会編における博物館等の記述**

**●小学校社会 指導計画の作成と内容の取扱い**

地域にあるこれらの施設(博物館等 一筆者挿入)を積極的に活用することによって、児童の知的好奇心を高め、学習への動機づけや学習の深化を図ることができる。また、諸感覚を通して実物や本物に触れる感動を味わうことができる。学校での積極的な活用を通して、これらの施設を自ら進んで利用できるようになる。そのことは生涯にわたって活用する態度や能力の基礎となるものである。

(文部科学省 2008 c : 101-102)

**●中学校社会 歴史的分野**

博物館や郷土資料館などに収蔵されている文化財を見学・調査することなどを通して、衣食住、年中行事、労働、信仰などに関わる学習を充実させることが望まれる。

(文部科学省 2008 d : 91)

新学習指導要領で博物館の積極的活用が推進されることになった背景には、イギリスの場合と同様に、知識基盤社会(あるいは、知の成長社会)の到来やグローバル化に対応した学習の役割として、生涯学習の奨励や思考力・判断力・表現力の育成が期待されることになったことがあげられる。

**2 「戦争博物館」としてのロンドン帝国戦争博物館**



ロンドン帝国戦争博物館(外観)

帝国戦争博物館(the Imperial War Museum)は、ロンドン帝国戦争博物館(the Imperial War Museum London)、チャーチル博物館&内閣戦争指導室(the Churchill Museum and Cabinet War Rooms)、ベルファスト号戦争博物館(the HMS Belfast)、ダックスフォード帝国戦争博物館(the Imperial War Museum Duxford)、ノース帝国戦争博物館(the Imperial War Museum North)の各館から構成される<sup>(5)</sup>。ここでは、これらの施設の内、本館に当たるロンドン帝国戦争博物館を取り上げ、同博物館による学校教育への支援の内容と方法について検討する。

**(1) ロンドン帝国戦争博物館の概要**

**a ロンドン帝国戦争博物館の歴史**

ロンドン帝国戦争博物館は、Lambeth Road, London SE 16HZに所在する。まず最初に、同博物館の歴史について概観する(the Imperial War Museum 2000 : 44)。

ロンドン帝国戦争博物館は、第一次世界大戦中の1917年に、大戦に関わる資料を収集し展示するための国立博



1843年当時のベツレヘム王立病院



博物館の設立が政府によって決定され、大戦後の1920年に開館した。1924年から35年にかけて、現在の建物となるベツレヘム王立病院（the Bethlem Royal Hospital）<sup>(6)</sup>の増改築の工事が行われ、1936年7月に完成した。

第二次世界大戦の勃発とともに、博物館の収集・展示の範囲は第二次世界大戦までの戦争に拡大された。また、1940年9月から1946年11月までは、Blitz（電撃作戦、ドイツ空軍によるロンドン空襲）による焼失を避けるために、同博物館は閉鎖され、その収蔵品はロンドン郊外に移された。その結果、収蔵品の大部分は空襲による焼失を免れた。

また、1953年には、同博物館の収集・展示の範囲が第一次世界大戦以降のイギリス及びイギリス連邦に関わったすべての軍事作戦に拡大させることになり、現在では、第一次世界大戦、第二次世界大戦及び現代までのすべての戦争・紛争をその対象としている。

### b 帝国戦争博物館の収蔵品

ロンドン帝国戦争博物館館を含めた帝国戦争博物館では、以下のような膨大な資料を収蔵している<sup>(7)</sup>。

- ・ 1万9千点の絵画、彫刻
- ・ 1万5千点のポスター
- ・ 1億2千万フィートの映画フィルム
- ・ 1万時間のビデオテープ
- ・ 5万6千時間の音声資料
- ・ 1千万点以上の写真、ネガ、スライド
- ・ 1万5千点を超える未刊の日記、手紙、自叙伝
- ・ 27万冊の書籍、地図類
- ・ 数千点に及ぶ軍服、勲章、小銃類
- ・ 数百点に及ぶ航空機・軍用車両類

### c ロンドン帝国戦争博物館の展示構成



ロンドン帝国戦争博物館の一階展示場

ロンドン帝国戦争博物館は、ドーム部分を含め地上五階、地下一階からなっている。各階の展示は、おおよそ以下の通りである（「資料3 ロンドン帝国戦争博物館の各階の主な展示品」を参照）<sup>(8)</sup>。

### 資料3 ロンドン帝国戦争博物館の各階の主な展示品

#### ○一階展示場○

- ・ 戦車、航空機、大砲、潜水艦、ロケットなどの兵器類
- ・ 映画コーナー
- ・ インフォメーションディスク

#### ○二階展示場○

- ・ スピットファイア（イギリス）、ゼロ戦（日本）、メッサシュミット（ドイツ）などの第二次世界大戦期の各国戦闘機を含めた軍用機
- ・ フォークランド戦争でのアルゼンチンからの捕獲品である高射砲を含めた兵器類
- ・ 諜報活動に関わる展示
- ・ ヴィクトリア十字勲章、ジョージ十字勲章及びその受章者に関わる展示

#### ○三階展示場○

- ・ 第一次、第二次世界大戦を描いた戦争絵画の展示

#### ○四階展示場○

- ・ ホロコーストに関する展示

#### ○五階展示場○

- ・ 「人類に対する犯罪」に関する展示

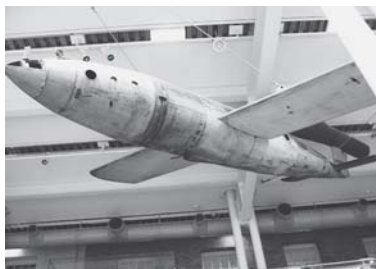
#### ○地下一階展示場○

- ・ 第一次、第二次世界大戦及び1945年以降の戦争・紛争に関わる展示
- ・ 塹壕体験コーナー
- ・ Blitz体験コーナー

### e ロンドン帝国戦争博物館における展示の工夫



戦車の内部を覗き込む見学者



ドイツ軍のV1号

ロンドン帝国戦争博物館では、展示に様々な工夫が施されている。展示品の周囲には柵が設けられておらず、第一次世界大戦時に使用されたタンク（戦車）などは、自由にその内部を覗いたりできるようにになっていた。また、V1号やV2号（第二次世界大戦中にドイツ軍が使用したロケット兵器）なども見学者の関心を集めていた。

次に、同博物館の展示を体験型展示と復元型展示に分け、それぞれについて取り上げる<sup>(9)</sup>。

#### <体験型展示>

体験型展示とは、展示品を見るだけでなく、実際に



ドイツ軍のV2号

触ったり動かしたりすることが可能な展示のことであり、一般には「ハンズオン (hands on)」と呼ばれている (小島2000:36)。

このような体験型展示として、ロンドン帝国戦争博物館では、防毒マスクの取扱い方を体験させたり、第二次世界大戦期の住宅を復元し (モデルハウス・プロジェクト)、見学者に室内にある日用品を触らせたりするなどの講座 (資料5,6を参照) が用意されている。また、展示場の一角には、「Eyewitness (目撃者)」というコーナーが設置されており、体験者の証言を受話器を通して聞くことができる。



体験者の話を聴く Eyewitness コーナー

厳密な意味でハンズオンとは言えないが、同博物館は、ポスターや写真などの複製や収蔵品のレプリカを数多く制作し、館内のミュージアムショップで販売している。そのようなものの中で「子供たちの戦争 (Children's War)」、「Blitz」、「戦時下の日常生活 (Daily Life in a Wartime)」、「銃後 (the Home Front)」など13種類のレプリカパックが比較的安価 (10ポンド前後) で入手でき、教材としても汎用性が高い。例えば、第二次世界大戦下のイギリスの子供たちの生活を復元した「子供たちの戦争 (Children's War)」というレプリカパックには、8種類のレプリカが入っていた (「資料4 Children's War Replica Pack の中身」と写真を参照)。

**資料4 Children's War Replica Packの中身**

● **Public Information Leaflet**

空襲時の避難方法などを解説した政府発行の戦時情報冊子

● **School Essay**

疎開体験やガスマスクを付けた体験などを綴った子

供たちの作文

● **Children's Newspaper**

戦時下の子供たちを読者として発行されていた新聞

● **Boy's Own**

戦時下に発行されていた少年誌

● **Miscellaneous Images**

戦時下の子供たちの様子を当時の漫画、写真等で記録したカード類

● **Poster**

第一次、第二次世界大戦期に制作された戦意高揚のためのポスター。このレプリカパックには「志願兵募集」のポスターが入っている。

● **Paperwork**

疎開者が付けていたタグ、乳児へのガスマスク貸与証などの事務書類

● **Food, Glorious Food**

戦時下の子供たちのための料理レシピ集



Children's War Replica Packの中身



<復元型展示>

復元型展示とは、当時のものやそれが使われていた環境を復元して展示するもので、復元図、復元模型、生活空間の復元やコスチューム・ガイドなどの方法がある (小島2001:178-180)。



塹壕から外を監視する兵士 (復元型展示)

ロンドン帝国戦争博物館は、イギリスの博物館の中でも、復元型展示が充実していることで有名である。同博物館での復元型展示として、第一次世界大戦時の塹壕を復元した「塹壕体験 (Trench Experience)」と第二次世界大戦時のロンドン空襲体験を扱った「電撃作戦体験 (Blitz Experience)」があげられる。

「塹壕体験」の展示では、第一次世界大戦時の西部戦線における塹壕が復元されており、入館者は塹壕の内部



塹壕の内部（復元型展示）

を歩く形で見学する。薄暗い塹壕の中を歩いて行くと、所々に銃を構えた兵士（人形）が配置されており、砲弾の爆発音や火薬の臭いなどもし、入館者は当時の戦場にいるような気分になる。

「電撃作戦体験」の展示では、防空壕と空襲による焼失後のロンドンの町並みが復元されており、防空壕の内部に入ると、爆弾の破裂する音、人々の悲鳴が聞こえて来る。空襲を受けたロンドンの街は煙までが漂っているなど、手の込んだ展示であった。

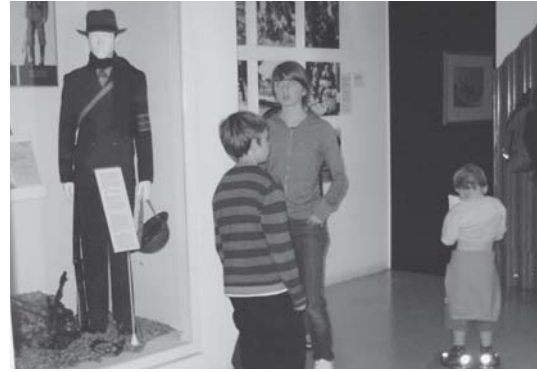
「塹壕体験」と「電撃作戦体験」は、「役者の説明による体験」と言う方法がとられている。これらの講座については、本稿の「3-（2）帝国戦争博物館の開設講座の検討」で詳しく取り上げる。この講座の参加者は、役者による臨場感溢れる解説によって、第一次世界大戦下の兵士や第二次世界大戦下のロンドン市民になったかのような体験が可能となる。これらの展示は映画の一場面を思わせるものであり、第一次、第二次世界大戦の様子を追体験できるものとなっている。

## （2）ロンドン帝国戦争博物館の教育的意義と課題

戦争の記憶を伝える記念施設として、戦没者墓地、博物館、資料館、記念碑などがある。博物館に関しては、軍事博物館、戦争博物館、平和博物館などの名称で呼ばれている。ロンドン帝国戦争博物館も、そのような施設の一つである。本稿では、そのような博物館を「戦争博物館」と呼ぶことにする。

博物館の戦争展示と表象の関係を論じているものに、荒井信一（荒井1994）、[記憶と表現]研究会（[記憶と表現]研究会2005）、国立歴史民俗博物館（国立歴史民俗博物館2003、2004）、西田勝・平和研究室（西田・平和研究室1995）、山辺昌彦（山辺2006）などの研究がある。戦争博物館や戦争展示の実態や性格は、兵器などの展示を中心とした軍事博物館的な性格のものから、戦争の実相を記録し平和の尊さを伝える平和博物館的な性格のものまで多種多様な形態がある（荒井1994：2-27）。

博物館の戦争展示と表象の関係については、戦争をどのようにとらえるのかという博物館ごとの解釈の差であり、博物館展示は博物館の設置主体や運営主体の立場を示すものである（国立歴史民俗博物館2004：17-97）。そのため、博物館の戦争展示を観る見学者の姿勢として、「ミュージアムの展示は無色透明で価値中立的なものではない。どんなに中立に見えても、そこにはだれが、何を、どのように展示したのかということが刻印されてい



ワークシートに書き込む少女（右端）

る。展示は、アートと同じ表現行為であるにとらえよう。見る側は、アートを見るのと同じように、そこに制作者はどのような意図をこめているかを見抜かなければならない。」（[記憶と表現]研究会2005：10）ということに十分留意する必要がある。



展示パネルの解説シート

展示にも配慮されており、「戦車や戦闘機などが展示され、一見戦争を賛美しているようですが、平和博物館の役割を一定程度果たしているように思いました。」（西田・平和研究室1995：156）との指摘もあり、児童・生徒たちの平和学習のための施設としても利用価値が高い。

## 3 ロンドン帝国戦争博物館と学校教育

国立民族学博物館の調査<sup>(10)</sup>によれば、学校現場から国立民族学博物館に対して、教員向けの生徒指導のための補助資料作成の要望が寄せられ、博物館が学校の授業や活動をどう支援していくかが重要な課題となっている（国立民族学博物館民族学研究開発センター2001：5-7）。国立民族学博物館に限らず、日本の他の博物館でも同様な課題を抱えている。この問題を考える上で、イギリスの博物館の取組みは参考になる。イギリスでは、展示、所蔵品及び教育プログラムをナショナル・カリキュラムに関連付けるとともに、学校教育を支援するための取組みが積極的に実施されている。

では、その例としてロンドン帝国戦争博物館を取り上



げ、展示、所蔵品及び教育プログラムとナショナル・カリキュラムとの関係について検討する。

(1) ナショナル・カリキュラムとの関係

小島道裕の研究によれば、イギリスの博物館の学校への対応策として、以下の三つの方法がとられている(小島2000:20-35)。

- ①博物館が直接に生徒を指導する
- ②博物館が情報や資料を提供し、教師が生徒を指導する
- ③(博物館が)学校へ資料セットを送って(貸し出して)学校の教室で使ってもらう(アウトリーチ)



豊富な教材と資料(ミュージアムショップ)

①については、比較的小規模の博物館で実施している場合が多く、②については、大抵の博物館が行っており、教員の活動を支援・指導するために「教員用の資料(Educational Resource Pack)」を制作し、「教員向け講座」を開催している。また、③については、イギリスでは3割ほどの博物館

で実施している。

本稿では、②で取り上げた「教員用の資料集」について取り上げる。「教員用の資料集」の内容は、利用案内、展示の解説、展示の背景となる歴史や文化の解説、学校のカリキュラムとの対応一覧、ワークシート、展示を使った作業の実例、図表・写真などから構成されている。日本の博物館でも、展示案内や展示品カタログが制作され、販売されているが、学校のカリキュラムとの対応や教員向けのガイドブックについては、あまりなされていない。学校教育と博物館の連携を考えると、今日、博物館展示と学校のカリキュラムとの対応を示すような取組みが必要となっている。

軍事博物館は他の一般博物館と比べ、教育や学校への支援や啓発への取組みは弱いとの指摘がある(塚原・アンダーソン1999:176)。しかし、筆者の調査では、ロンドン帝国戦争博物館は、この面で大変充実していた。学校に提供できる学習内容として、同博物館では、以下の四点をあげている(<http://london.iwm.org.uk/server/show/nav.161>, 2009年8月20日取得)。

- ・ハンズオン展示やワークショップに参加し、第二次世界大戦中のイギリスでの生活がどうであったのかを学習できる。

- ・第一次世界大戦における塹壕での生活やその中での状況がどうであったのかを学習できる。
- ・アフリカ、アジア、カリブ海域の(男性、女性を含めた)人々の戦時中の国家への貢献について学習できる。
- ・オリエンテーションやフィードバックのための講座や特別に作成されたオーディオガイドを活用してホロコーストの展示を学習できる。

(2) ロンドン帝国戦争博物館の開設講座の検討

ロンドン帝国戦争博物館では、展示品や収蔵品を活用した学校向けの講座を開設している。これらの講座は、「資料5 ロンドン帝国戦争博物館の2009-2010年の教育プログラム」(<http://london.iwm.org.uk/upload/pdf/EducationProgramme09-10.pdf> 2009年8月20日取得)で示されているように、ナショナル・カリキュラムの各KSに対応している。

資料5 ロンドン帝国戦争博物館の2009-2010年の教育プログラム

講座の種類	学校向け講座名	KS1	KS2	KS3	KS4
通常講座	靴、カバン、上着	●			
	ブリキ製玩具	●			
	統後の家	●	●		
	統後の生活		●		
	子供たちの時間		●		
	モデルハウス・プロジェクト		●		
	子供たちの見たもの		●		
	一緒に(Together)		●	●	●
	第一次世界大戦/イギリスと大戦			●	●
	塹壕での戦闘			●	●
	第一次世界大戦期の女性			●	●
	第二次世界大戦/1939年-1945年の統後			●	●
	1933年-1939年のナチス時代のドイツ			●	●
丹念に見よう 塹壕での戦闘			●	●	
ホロコースト展示	オリエンテーション* フィードバック*			●	●
役者の説明による体験	Blitz体験		●	●	●
	塹壕体験		●	●	●
2009年秋季特別講座	War to Windrush*		●	●	●
	第一次、第二次世界大戦の追悼	●			
	戦時下のクリスマス		●		
2010年春季特別講座	戦争によって障害を負った人々の権利			●	●
	また、食べましょう!!		●		
2010年夏季特別講座	我が家から離れて 疎開		●	●	●
	疎開者 家から離れ独りぼっち!		●	●	●

・資料5は、ロンドン帝国戦争博物館ホームページ掲載の表「Education Programme 2009-2010」を元に筆者が作成した(一部改変)。  
 ・資料5中の\*印の講座については、資料6では取り上げてない。

これらの講座は、資料5のように「通常講座(Regular Session)」、春期・夏季・秋季のそれぞれ一定期間にのみ開設する「特別講座(Special Session)」、「役者の説明による体験」などから構成されており、大変魅力的な内容構成となっている。また、ロンドン帝国戦争博物館のホームページに掲載されていた各講座について筆者が整理したものが、「資料6 ロンドン帝国戦争博物館の学校向け講座一覧」である(<http://london.iwm.org.uk/server/show/nav.1000>, 2009年8月20日取得)。

## 資料6 ロンドン帝国戦争博物館の学校向け講座一覧

### <Key Stage 1>用の講座

講座の種類	講座名	講座の活動内容	概要
KS 1用 講座の概要	これらの講座では、一般人の生活や生活様式（ライフスタイル）について学び、過去がどのように描かれているかを示す日用品、絵、写真、文書、音声資料、映像資料などの広範な資料を調べることができる。		
通常講座	靴、カバン、上着	1940年代（第二次世界大戦）の子供たちの衣服や持ち物は、今日の子供たちが身につけているものや使っているものと比較してみて、どのように違うか。受講者はそのことについて討論したり、手で持ったり、外観を描いたりすることを通して、それらの相違点や類似点について調べ、発見する。 もし受講者が戦争の実際の様子を知りたいと思うならば、この講座では、以下の活動を通してその要望に応えることができるであろう。 ●疎開者のスーツケースの中を調査する ●空襲警報、大気がガタガタ触れえる音や鐘の音など、戦時の騒音を聴く ●さまざまな種類の防毒マスクに触り、その取り扱いを体験する	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：45分 該当学年：第1、第2学年 参加人数：少なくとも大人4人を含む30人（最大） 料 金：一講座につき60ポンド
通常講座	ブリキ製玩具	この講座では、1940年代（第二次世界大戦）に作られた当時の玩具や複製玩具、ゲームを調べる機会を子供たちに提供する。またこの講座では、玩具の素材や使い方、今日の玩具との相違点について考察することが重要な活動となっている。受講者は「Make Do」や「Mend Toys」（1940年代に人気のあった玩具の名称）などの当時の玩具を観察したり、それらの玩具を真似て自分で作ったりする。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：60分 該当学年：第1、第2学年 参加人数：少なくとも大人4人を含む30人（最大） 料 金：一講座につき60ポンド
通常講座	銃後の家	手に持ったり討論したりすることを通して、受講者は1940年代（第二次世界大戦）の家庭にあった日用品やその使い方について学習する。受講者は、当時の家が今日のものとのくくらい似ているのか或いは違っているのか、戦時下のモデルハウスの中を調べる。また、受講者はモデルハウスのそれぞれの部屋がどのように使われていたかについて明らかにしたり、家の中にあるもので自分たちが知っているものについて話しあったりすることを通じて、戦争期のイギリスの様子についての認識を深めることができる。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：45分 該当学年：第1、第2学年 参加人数：少なくとも大人4人を含む30人（最大） 料 金：一講座につき60ポンド
特別講座	第一次、第二次世界大戦の追悼	受講者は、第一次、第二次世界大戦を追悼する活動に参加する。受講者は、当時のものを手に持ったり写真を見たりすることで、第一次、第二次世界大戦中の兵士はどうであったかを調べる。そして、第一次、第二次世界大戦の追悼のしるしとして「ポピー（芥子）の花」を作る。  （*イギリスでは、「ポピー（芥子）の花」を紙などで作ることは戦死者を追悼することを意味する）。	実施時期：11月2日～6日 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：75分 該当学年：第1、第2学年 参加人数：最大30人。 同行者として5人の成人が必要であることに留意すること。 料 金：一講座につき90ポンド

### <Key Stage 2>用の講座

講座の種類	講座名	講座の活動内容	概要
KS 2用 講座の概要	ロンドン帝国戦争博物館の所蔵資料は、子供たちが1930年以来イギリスが行ってきた選択を辿る上で適した資料である。また、これらの講座は、第二次世界大戦が当時の一般人の生活に与えた影響について学習したり、20世紀に起こった社会上、技術上の様々な変化を調べたりするための多くの機会を提供するものである。		
通常講座	銃後の家	KS 1と同じ内容	KS 1と同じ内容
通常講座	銃後の生活	大戦期のイギリスの生活状況は、この講座での相互の話し合いを通して臨場感溢れるものになる。受講者は、疎開、配給制、空襲、市民による防空を含む一連のテーマに関する生活用品、ポスター、写真を調べる。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：60分 該当学年：第3～第6学年 参加人数：30人（最大） 料 金：一講座につき90ポンド
通常講座	子供たちの時間	この講座は、日用品、文書、写真を使うことで第二次世界大戦中のイギリスの子供たちの時間がどうであったのかということに対する、受講者の理解を深めることを目的とする。受講者は、第二次世界大戦中に子供たちが国家にどのように協力したのか、空襲や欠乏の危険にどのように対処したのか、また子供たちの楽しみ（娯楽）としてどんなものがあったのかを調査する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：90分 該当学年：第5～第6学年 参加人数：35人（最大） 料 金：一講座につき90ポンド
通常講座	モデルハウス・プロジェクト	1940年代（第二次世界大戦中）にロンドンに住んでいた家族の個人史を明らかにする。戦争が家族の生活にどのような影響を与えたかを調べるために、受講者は、家族のそれぞれが持っていたものを手に持ったり、彼ら/彼女らの写真や書いたものを見たりする。受講者は、モデルハウスの中を調べ、1940年代と今日の生活状況を比較し、その違いを明らかにする。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：90分 該当学年：第4～7学年 参加人数：30人（最大） 料 金：一講座につき90ポンド



イギリスにおける博物館教育

通常講座	子供たちの見たもの	受講者は、都市と疎開先の農村での子供たちの日常生活に対する戦争の及ぼした影響を調べる。この講座では、当時の日用品、写真、日記や手紙を調べ、子供たちの目から見た第二次世界大戦中のイギリスの状況についての理解を深めることを目的としている。また、疎開経験者がこの講座に招いて、受講者はその体験を聞く機会をもつことができる。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前11:00 及び午後1:30 講座時間：90分 該当学年：第5～第6学年 参加人数：35人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
通常講座	一緒に（Together）	アフリカ系、アジア系、カリブ海の人々（男性と女性）の国家や社会に対する貢献は、これまでしばしば無視されてきた。そのため、この講座では、人種、性別が異なる五人の人々を取り上げ、ロンドン帝国戦争博物館の収蔵資料を受講者に分析させ、彼ら／彼女らの個人史や、直面した様々な困難について学習し、彼ら／彼女らの果たした国家や社会への貢献について焦点を当てることにする。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：90分 該当学年：第5～第6学年 参加人数：32人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
特別講座	戦時下のクリスマス	この講座では、第二次世界大戦中のクリスマスを祝う際に生じた問題について調べる。当時、家族は出征や疎開などでばらばらになっており、クリスマスを祝うための食料やプレゼントも欠乏していた。受講者は、クリスマスに必要なものをどのように回収したり再利用したりするかと言うことについて話し合い、クリスマスの飾り付けをする。また、疎開経験者をお招きし、その経験談をうかがう。	実施時期：11月7日～11日 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：75分 該当学年：第3～第6学年 参加人数：35人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
特別講座	また、食べましょう！！	受講者は、第二次大戦中に、食糧等の配給がなぜ必要であったのか、人々はそのような状況の下でどのように対処していたのかを調べる。また、この講座では、グループ単位で当時のレシピに基づいてパンを焼いたり、「Food Flash」という寸劇を上演したりする。	実施時期：3月1日～5日 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：75分 該当学年：第5、第6学年 参加人数：30人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
特別講座	我が家から離れて疎開	この講座では、当時の日用品やオーラルヒストリー（口述史料）、ポスター、映画の資料を通して、子供たちに疎開について探究するという活動を行う。また、戦時下の子供たちの体験について知るために、これらの活動に加えて、疎開経験者へのインタビューを行う。	実施時期：5月10日～14日 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：90分 該当学年：第4～第6学年 参加人数：32人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
特別講座	疎開者 家から離れ独りぼっち！	この講座は、疎開を扱った劇を上演するというプログラムである。疎開を経験した子供の気持ちや体験を追体験することを通じて、受講者は、子供たちの安全のために、家庭や政府によって行われた疎開という選択について学習する。また、受講者は、政府の役人、疎開する子供やその親たちなどの役を通して、当時の人々が第二次世界大戦下で経験した様々な出来事について追体験する。	実施時期：6月14日～18日 実施時間：午前10:30 及び午後1:30 講座時間：75分 該当学年：第4～第6学年 参加人数：35人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド
役者の説明による体験	Blitz体験 (電撃作戦体験)	第二次世界大戦中のロンドンが舞台である。説明を行う人はドイツ空軍による空襲を監視する役人の役で、第二次世界大戦でのロンドン空襲とその時の市内の様子を受講者に語る。この講座では、爆弾の炸裂する音、人々の叫び、火薬の臭いなどの特殊効果が臨場感あふれる体験を演出している。	実施時期：指定された日 実施時間：指定された時間 講座時間：30分 該当学年：第3～第11学年 参加人数：19人（最大） 引率の成人一名を含む 料 金：一講座につき 60ポンド
役者の説明による体験	塹壕体験	第一次世界大戦中のヨーロッパ西部戦線が舞台である。説明を行う人は兵士ないしは看護婦の役で、塹壕内での生活や、西部戦線での戦闘の様子を、受講者に語る。館内に復元された第一次世界大戦時の塹壕の見学も併せて行う。塹壕体験は、爆発や銃撃の音や光、人々の叫び声、火薬の匂いなどの特殊効果が、臨場感あふれる体験を演出している。	実施時期：指定された日 実施時間：指定された時間 講座時間：30分 該当学年：第5～第11学年 参加人数：19人（最大） 引率の成人一名を含む 料 金：一講座につき 60ポンド

<Key Stage 3, 4 >用の講座

KS3・4用 講座の概要	ロンドン帝国戦争博物館は、中等教育段階の様々な教科領域、とりわけ歴史、美術、シチズンシップなどの教科のために、多くの多様な資料を提供している。ロンドン帝国戦争博物館の教授部門は、受講者に、博物館が収集した日用品、文書、写真、映像、口述史料を批判的に評価するための機会を提供している。
-----------------	---

講座の種類	講座名	講座の活動内容	概要
通常講座	一緒に（together）	KS 2と同じ内容	KS 2と同じ内容
通常講座	第一次世界大戦 ／ イギリスと大戦	受講者は、他の受講者と一緒に館内を調査し、収集品の中から第一次世界大戦に関する3つの重要領域である「塹壕での戦闘」、「銃後」、「女性」に関する資料を探し、それを用いて探究する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前10:30 及び午後2:00 講座時間：90分 該当学年：第9～第11学年 参加人数：32人（最大） 料 金：一講座につき 90ポンド

通常講座	塹壕での戦闘	ロンドン帝国戦争博物館の収蔵品の中から、写真、映画、口述史料、日用品、文書を含む一連の資料を使って、第一次世界大戦中の塹壕の中の様子がどうであったかについて、調査する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前 10:30 及び午後 2:00 講座時間：90 分 該当学年：第 9～学 11 学年 参加人数：32 人（最大） 料 金：一講座につき 90 ポンド
通常講座	第一次世界大戦期の女性	第一次世界大戦時に生きた 3 人の女性、Elsie Inglis, Ada Green, Helen Thomas の個人史を学ぶとともに、3 人の女性を比較するために、ロンドン帝国戦争博物館の収蔵資料を活用する。そして、第一次世界大戦が女性の社会進出を進めたことについて考察し、彼女らの人生が戦争によって、どのように変わっていったかについて考察する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前 10:30 及び午後 2:00 講座時間：90 分 該当学年：第 9 学年 参加人数：32 人（最大） 料 金：一講座につき 90 ポンド
通常講座	第二次世界大戦 ／ 1939年－1945年の 銃後	帝国戦争博物館の収蔵資料を使って、the Phony War（インチキな戦争）、空襲、欠乏、戦争のイギリス国民への影響などについて学習する。  * the Phony War とは、1939 年 9 月の独によるポーランド侵攻から 40 年 5 月までの独と英仏の戦闘が起こるまでの段階の戦争を言う。この間、英仏は独とソ連が戦うことを期待して独への軍事行動を起こさなかったため、ナチス・ドイツの侵略拡大を許すことになった。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前 10:30 及び午後 1:30 講座時間：75 分 該当学年：第 9 学年 参加人数：30 人（最大） 料 金：一講座につき 90 ポンド
通常講座	1933年－39年の ナチス時代のドイツ	この講座では、1930 年代に Howard というアメリカ人の文通相手に熱心に文通していた、ライブチヒの Wemer Lehmann という 10 代の女性について取り上げる。受講者は、彼女の手紙や絵ハガキ、当館が収集したその他の資料を用いて、第二次世界大戦へ突き進む時期のナチス時代のドイツの生活はどうであったのかについて学習する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前 10:30 及び午後 2:00 講座時間：60 分 該当学年：第 9～学 11 学年 参加人数：32 人（最大） 料 金：一講座につき 60 ポンド
通常講座	丹念に見よう 塹壕での戦闘	この講座では、塹壕で戦った兵士たちに及ぼした第一次世界大戦の影響について、塹壕の観察での成果を元に討論を行う。受講者は、ここの学習を元に第一次世界大戦はどのような戦争であったかについて、解釈する。	実施時期：通常講座の期間 実施時間：午前 10:30 及び午後 2:00 講座時間：60 分 該当学年：第 9～学 11 学年 参加人数：32 人（最大） 料 金：一講座につき 60 ポンド
特別講座	戦争によって障害を負った人々の権利	この講座は、「一日型のワークショップ」である。内容は、ロンドン帝国戦争博物館内での自由で自発的な討論と調査、及び国会の訪問等から構成されている。午前に、ロンドン帝国戦争博物館内で人権や戦争によって障害を負った人々などの権利について学習する。また、そのことについて討論を行い、それらの人々を保護し、救済する法律について学習する。午後に、国会を訪問し、法律がどのように制定されるかを学び、国会議員に会い、質問したり自分たちの要望を伝えたりする。	実施時期：1 月 18～20 日 実施場所：帝国戦争博物館 ・国会教育ユニット 実施時間：午前 10:30-正午 及び午後 1:15-3:45 講座時間：1 日 該当学年：第 9 学年 参加人数：20 人（最大） 料 金：一講座につき 90 ポンド
特別講座	我が家から離れて 疎開	KS 2 と同じ内容	KS 2 と同じ内容
特別講座	疎開者 家から離れ独りぼっち！	KS 2 と同じ内容	KS 2 と同じ内容
役者の説明による体験	Blitz体験	KS 2 と同じ内容	KS 2 と同じ内容
	塹壕体験	KS 2 と同じ内容	KS 2 と同じ内容

・資料 6 は、ロンドン帝国戦争博物館のホームページの内容をもとに筆者が作成した（一部改変）。



教師の説明を聞く高校生の一団  
(2008年 9 月 2 日、ロンドン帝国戦争博物館周辺で撮影)



防毒マスクを付けた子供たち  
(ロンドン帝国戦争博物館の展示)

「資料6 ロンドン帝国戦争博物館の学校向け講座一覧」から明らかのように、ロンドン戦争博物館では、一年間を通じて各KS毎に講座が準備されている。では、学校教育への支援という面から見た場合、これらの講座はどのように評価できるだろうか。学校教育への支援としての注目点を整理し、以下に列挙する。

第一に、ロンドン帝国戦争博物館の講座は、博物館の収蔵品や展示品を活用しながら、「ロールプレイ」、「討論」、「料理作り」、「玩具作り」、「体験者へのインタビュー」など多様なアクティビティが用意されており、それらを体験できる点が注目される。

第二に、それぞれの講座の活動が、受講生の発達段階に応じて入念に検討されており、KS1からKS4まで段階的・継続的に配置されている点が注目される。

第三に、講座で用いられる資料・教材類として、日用品、手紙、個人写真など身近なものが用意されており、またそこで扱っているテーマも「疎開体験」、「電撃作戦体験（空襲体験）」など、一般市民の視点からとらえられたものであることが注目される。

第四に、講座の中には、「塹壕体験」や「電撃作戦体験（空襲体験）」など極めて精巧な復元展示を活用するものもあり、受講生は、アミューズメントパークでのアトラクションに参加しているような臨場感溢れる体験ができることが注目される。

上記のような注目点は、決してロンドン帝国戦争博物館の場合だけのものではなく、ロンドンの他の多くの博物館においても同様な取組みが行われている（小島2000, 2001）。

また、ロンドン帝国戦争博物館では、講座の他にも、児童・生徒用の博物館見学用ワークシートが作成されており、同博物館のホームページからダウンロードできるようになっている<sup>(11)</sup>。これらのワークシートは、各KSのものが用意されており、利用者の年齢や発達段階に応じた博物館見学を可能にしている。ロンドン帝国戦争博物館が作成したワークシートの一部を本稿末に資料として添付する（資料7, 8, 9参照）。

## おわりに

知識基盤社会の到来やグローバル化という時代的要請を受け、今日の学校では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらの活用が学校教育に求められ、新しい学びの方法が模索されている。その一つの方法として、小・中学校社会科や高校地歴科の新学習指導要領では、博物館等の活用について言及している。イギリスの博物館教育は、日本の学校にとっても学ぶべきところが多い。とくに、博物館の展示、収蔵品及び教育プログラムをナショナル・カリキュラムや学習指導要領と関連付けることで、博物館を第二の教室として位置付け、活用している点は参考になる。

このような観点に立ってロンドン帝国戦争博物館の取

組みを検討するならば、同博物館の展示、収蔵品や講座は児童や生徒の問題意識や学習への関心を刺激するものであり、日本の博物館でもその導入が待たれるものである。また、その導入によって博物館ばかりでなく、学校の学びにも大きな変化をもたらすことが期待できる。

## 註

(1) ロンドンでの博物館調査は、平成20年度～平成22年度科学研究費補助金の基盤研究(c)「総合的な学習の時間で博物館を活用した国際理解を推進するための教員研修に関する研究」の一環として実施した。

(2) キー・ステージ(KS)の各段階は以下の通りである

([http://www.bbc.co.uk/schools/parents/work/curriculum\\_guide/key\\_stages\\_levels.shtml](http://www.bbc.co.uk/schools/parents/work/curriculum_guide/key_stages_levels.shtml), 2009年9月30日取得)。

Foundation Stage : 託児所・幼稚園段階(3-5歳)

Key Stage 1 : 第1-第2学年(5-7歳)

Key Stage 2 : 第3-第6学年(7-11歳)

Key Stage 3 : 第7-第9学年(11-14歳)

Key Stage 4 : 第10-第11学年(14-16歳)

(3) 帝国戦争博物館の学習部門(Learning)のURLは、<http://london.iwm.org.uk/server/show/nav.161>である(2009年8月20日取得)。

(4) 本稿が受付された時点(2009年8月31日)では、まだ高校地歴科の新学習指導要領解説は刊行されていなかったため、検討することができなかった。

(5) ロンドン帝国戦争博物館以外の各施設の所在地は、以下の通りである(the Imperial War Museum 2000: 44)。

- the Churchill Museum and Cabinet War Rooms : Clive Steps, King Charles Street, London SW1A2AQ

- the HMS Belfast : Morgan's Lane, Tooley Street, London SE1 2JH

- the Imperial War Museum Duxford : Cambridge CB2 4QR

- the Imperial War Museum North : The Quays, Trafford Wharf Road, Trafford Park, Manchester M17 1TZ

(6) ベツレヘム王立病院(the Bethlem Royal Hospital)の歴史は古く、1247年まで遡る。現在、ロンドン帝国戦争博物館になっている建物は1815年に完成し、中央のドーム部分が1846年に付け加えられた。また、東西のウイング部分が1930年代初めに取り除かれ、現在の姿となった(the Imperial War Museum 2000: 44)。

(7) ロンドン帝国戦争博物館が所蔵する21万9千点以上の収蔵品の主な内訳は、3万3千点以上の写真、1万1千点の美術品、2万7千点の音声資料、



- 1万4千点の文書資料である (<http://collections.iwm.org.uk/>, 2009年8月20日取得)。
- (8) 筆者の見学記録とロンドン帝国戦争博物館発行のガイドブック (the Imperial War Museum 2000) をもとに整理した。
- (9) イギリスの博物館が行っている展示の工夫の例として、小島道裕は、「体験」、「復元」、「復元+体験」の3類型に分けて、解説している (小島 2000: 36-57)。「復元」型の場合は、同時に体験的要素を含んでいるため、本稿では、「復元+体験」型をあえて独立したカテゴリーとせず、「復元」型に含めて扱うことにし、「体験」、「復元」の2類型とした。
- (10) 国立民族学博物館は、大阪府吹田市千里万博公園内に所在し、民族学・文化人類学を中心とした国内最大級の博物館を有する研究所で、標本資料27万5千点を所蔵している (2009年4月現在)。
- (11) ロンドン帝国戦争博物館のワークシートを掲載している URL は、<http://london.iwm.org.uk/server/show/nav.1140> である (2009年8月20日取得)。

## 引用文献

- ・荒井信一 (1994) 『戦争博物館 (岩波ブックレット NO.328)』岩波書店。
- ・[記憶と表現] 研究会 (2005) 『訪ねてみよう戦争を学ぶミュージアム／メモリアル (岩波ジュニア新書 510)』岩波書店。
- ・栗原祐司 (2001) 「イギリスにおける博物館政策」『博物館研究』36(4) 日本博物館協会 24-29。
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター (2007) 『平成17年度教育課程実施状況調査 (高等学校) Voll.2 (2/2)ペーパーテスト調査集計結果及び質問紙調査集計結果』(報告)。
- ・国立民族学博物館民族学研究開発センター (2001) 『学校における博物館の利用方法をめぐって』(報告)。
- ・国立歴史民俗博物館 (2003) 『歴史展示とは何かー歴博フォーラム歴史系博物館の現在・未来ー』アムプロモーション。
- ・国立歴史民俗博物館 (2004) 『歴史展示のメッセージー歴博国際シンポジウム<歴史展示を考えるー民族・戦争・教育ー>』アム・プロモーション。
- ・小島道裕(2000) 『イギリスの博物館でー博物館教育の現場からー』歴史民俗博物館振興会。
- ・小島道裕(2001) 「イギリスにおける博物館の現状」『国立歴史民俗博物館研究報告』90 国立歴史民俗博物館 173-186。
- ・中央教育審議会(2008) 『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について』(答申)。
- ・中村浩 (2006) 『ぶらりあるきロンドンの博物館』芙蓉書房出版。
- ・西田勝・平和研究室 (1995) 『世界の平和博物館』日本図書センター。
- ・文部科学省 (2008a) 『小学校学習指導要領』東京書籍。
- ・文部科学省 (2008b) 『中学校学習指導要領』東山書房。
- ・文部科学省 (2008c) 『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社。
- ・文部科学省 (2008d) 『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版。
- ・文部科学省 (2009) 『高等学校学習指導要領』文部科学省。
- ・山辺昌彦 (2006) 「戦後60年と歴史博物館・平和博物館の戦争展示」『季刊戦争責任研究51 (2006年春季号)』64-73。
- ・Anderson, D. (1999) *A Common Wealth :Museums in the Learning Age*. London :The Stationery Office (塚原正彦・デヴィッド・アンダーソン著, 土井利彦訳(2000) 『ミュージアム国富論ー英国に学ぶ「知」の産業革命ー』日本地域社会研究所の第2編「英国の挑戦ーミュージアムがつくる『知の成長社会』」) .
- ・The Imperial War Museum (2000) *Imperial War Museum London Guidebook*. London :The Imperial War Museum.

## 引用URL

- ・The Imperial War Museum London : <http://london.iwm.org> (2008年8月20日取得)。

## 写真の出典

本稿に掲載した写真のうち、「1843年当時のベツレヘム王立病院」(53頁), 「Children's War Replica Packの中身」(55頁) の2葉は、The Imperial War Museum Londonのホームページ (<http://london.iwm.org>, 2009年8月20日取得) より転載した。それら以外の写真は、筆者が撮影した。

## 付記

本稿は、平成20年度～平成22年度科学研究費補助金の基盤研究(c)「総合的な学習の時間で博物館を活用した国際理解を推進するための教員研修に関する研究」(研究代表・田尻信壹, 課題番号20530845) の成果の一部である。

(2009年8月31日受付)

(2009年11月6日受理)

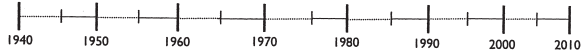


資料7 KS1のワークシート

The 1940s House

Name \_\_\_\_\_  
School \_\_\_\_\_

- 1 Look on the timeline to work out roughly how old the house is.  
(Count in tens to do this) \_\_\_\_\_ years old  
The dotted part shows 5 years.



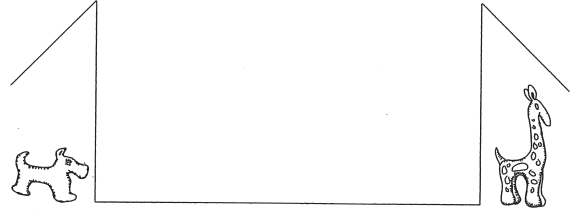
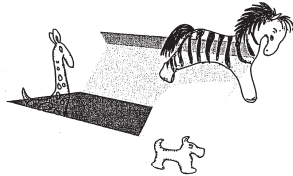
INSIDE THE HOUSE UPSTAIRS

- 2 How many stairs are there? \_\_\_\_\_ steps  
3 Fill in the gaps with 2 of these words:

scary warm cold big small dark

I think that the house is \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_.

- 4 Look in the toy box in the back bedroom.



- 5 Write down 3 things in the house beginning with the letter S.

1 \_\_\_\_\_  
2 \_\_\_\_\_  
3 \_\_\_\_\_

DOWNSTAIRS

- 6 Complete the drawing of the dog in the living room.



資料8 KS2のワークシート



The 1940s House

Name \_\_\_\_\_  
School \_\_\_\_\_

The 1940s house is part of The Children's War exhibitions. You will learn about how people lived during the Second World War and discover some of the ways in which the war affected their lives. Not everyone lived in a house like this one.

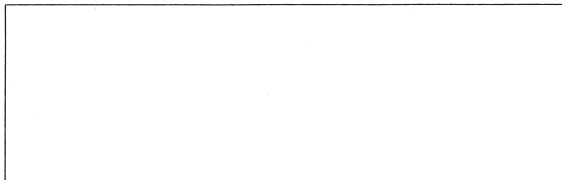
1. Read the information panel by the entrance to the bedroom.  
How many houses were totally destroyed by air raids? \_\_\_\_\_

Enter the house via the upper level of The Children's War exhibition.

You will begin in the children's bedroom. As you walk around the house look carefully at what is in the rooms and think about what it feels like to be inside.

2. Find the toy box in the corner of the children's bedroom.  
Can you name one toy made from
- a. metal? \_\_\_\_\_ b. wood? \_\_\_\_\_  
c. material? \_\_\_\_\_ d. paper? \_\_\_\_\_

3. Make drawings of 2 of the toys in the toy box below:

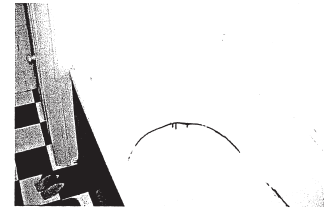


4. Now go into the parent's bedroom. Find the china bottle on one of the beds.  
What do you think it was used for? \_\_\_\_\_

5. Why do you think this would have been necessary?  
CLUE: (Think how the houses were heated) \_\_\_\_\_

6. Look inside the bathroom.  
Why do you think there is a line drawn inside the bath?

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



7. What would people have used the stirrup pump for at the top of the stairs?  
CLUE: (Look on the side of the bucket)

\_\_\_\_\_

Now go downstairs

8. Find the basket in the hall with 2 objects in it. What do you think is inside?  
CLUE: (Something people carried around with them to protect themselves)

\_\_\_\_\_

9. Look at the windows of the house. Why is there tape on the windows?

\_\_\_\_\_

10. Go into the living room. Can you find something people listened to, to find out what was happening in the war?

\_\_\_\_\_

Look at the kitchen. Compare it to your kitchen at home.

People did not have refrigerators during the war. They had to go shopping nearly every day to buy food as it could not be stored for long.

# 資料 9 K S 3・4 のワークシート

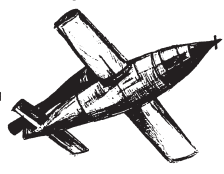
**EDUCATION SERVICE** **LARGE EXHIBITS GALLERY**  
SECOND WORLD WAR



Name \_\_\_\_\_ School \_\_\_\_\_

Each war brings with it the need to develop technologically superior military equipment. This can be seen in the large exhibits from the Second World War: a diverse range that bears testimony to a massive scale of conflict.

- Find the V1 and V2 missiles on the left of the gallery and watch the films about them.
  - What year were these weapons first launched on Britain?
  - Hitler called these his 'reprisal weapons.' What is the German word for this?
  - Why do you think they were considered so terrifying?



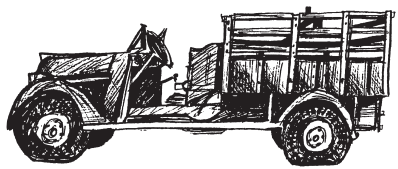
- You will find the 'Little Boy' atomic bomb towards the back of the gallery. Approximately how many casualties were there when a bomb of this type was dropped on Hiroshima on August 6 1945? (Compare these figures with the 3 killed and 10 injured by the first V2 that fell on London less than a year earlier.)
  - Write down three examples from the exhibits on display.
  - Why might these have been given such names?

Killed \_\_\_\_\_  
Injured \_\_\_\_\_



- Describe the scene shown in the photograph of Hiroshima on the right.
  - Why do you think attitudes towards war could never be the same again?
- Like 'Little Boy' other exhibits have interesting and sometimes affectionate nicknames.
    - Write down three examples from the exhibits on display.
    - Why might these have been given such names?

- Take a close look at the LRDG Chevrolet 30 cwt truck in front.



- Note down the ways in which it has been changed for desert warfare.
- Why might such a truck have been used rather than a vehicle designed especially for army use?

- Now walk through the fuselage section of the Halifax bomber.
  - What do you think conditions would have been like when the plane was loaded and in flight?
  - Why do you think this and the neighbouring Lancaster are painted black?

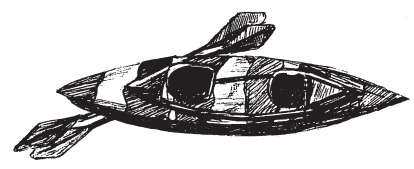
- Look at the cockpit from the Japanese Zero-Sen fighter plane and read the caption.
  - What is the name given to the particular pilots who flew these planes in suicide attacks against the Allies?
  - With your classmates, discuss how these men would have felt and why they would have agreed to the task. Write down your thoughts.

- Find the remains of Rudolf Hess's Messerschmidt 110 aeroplane.
  - Who was Hess and what was he hoping to achieve by flying to Scotland?
  - Do you think he deserved to be sentenced to life imprisonment? Explain.

**NOW GO UP TO THE TOP FLOOR.**

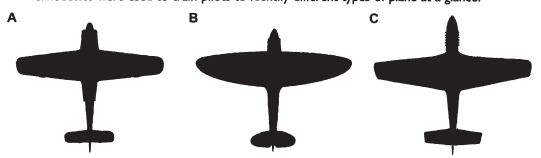
- You might have noticed that some exhibits have cartoon characters painted on them. Do you think it is good to give military models affectionate nicknames and paint them with such images? Explain your answer.
- Camouflage colours are one way in which you can work out where an exhibit was originally deployed.
    - Why is camouflage so important?
    - Locate two pieces of Second World War military equipment, one used in North Africa and one used in Eastern Europe. Write down their names.
- You may wish to look out for different types of camouflage as you go through the exhibition.
- The red cross jeep is a type of vehicle which was widely used in the Second World War.
    - What kind of modern vehicle does it remind you of?
    - Although this jeep belonged to the British Red Cross, how can you tell from looking inside that it was made in the United States?
  - Look at the German one-man Biber submarine and the Italian 'Human Torpedo'. What basic difference is there between the two that would have affected underwater conditions for the crewman?

**NOW TAKE THE STAIRS UP TO THE FIRST FLOOR.**



- Hung up on the back wall of the gallery is the Cockle Mark II canoe.
  - Why was it designed to be collapsible?
  - Why do you think the 'Cockleshell Heroes' were considered so brave?

- Look at the three prized Second World War fighter planes in front. The British Spitfire is on the left, the German Focke-Wulf 190 on the right and the American P-51 Mustang in the centre.
  - See if you can match the planes above to the illustrations below - these aircraft recognition silhouettes were used to train pilots to identify different types of plane at a glance.



- In addition to camouflage and silhouette recognition, what else did a pilot see that helped him to identify which country a plane came from? Draw an example from one of these three planes.

- Now read the technical specifications relating to these planes (at the foot of the main caption text). Which three automobile manufacturers made their engines?
- Which plane would you prefer to pilot and why?

- Use the following check-list to say how well you think the Large Exhibits Gallery, as a whole, reflects the reality of war.

	Good	Fair	Poor	What other kinds of exhibit would you need to see to complete the picture? If you have time, you may wish to look for examples in the Lower Ground Floor displays.
Conditions in battle				
Design and technology				
Production of weapons and vehicles				
Strategies and campaigns				
People's feelings and opinions				
Destruction and loss of life				